

令和5年度 自己評価報告書

学校法人 大阪経理経済学園
大阪情報コンピュータ専門学校

1. 学校の教育目標

建学の理念

創立者金澤尚淑博士は、「観念だけではなく、実学、つまり実践の中から真理を学び取らなければならない。真剣に学びたいと熱望し、そのために努力している若者に対して、一切の差別なく、広く高等専門教育の場が開かれなければならない」との信念に従い、1968年(昭和43年)に学校法人大阪経理経済学園を設立し、有為な人材を求める産業界の要請に応え、いち早く実践的な職業教育・専門技術教育を開始した。

学園の使命

本学園は、創立者の建学の理念に基づき、広く知識を教授し、教育を通じた国際性の涵養と産業界の即戦力となる人材の育成を使命とする。

技術者像の設定

(1) 学校教育目標

大阪情報コンピュータ専門学校は、建学の理念に基づく学園の使命に沿って、学生一人ひとりの個性を伸ばし、情報通信、及びゲーム・コンピュータグラフィックス・デザイン等の専門分野における「実践的な専門的知識・技術」「論理的判断能力」「情報通信技術(ICT)を活用したコミュニケーション能力」を高める教育を実践し、未来の産業社会で活躍できる中堅技術者・クリエイターを養成する。

(2) 教育分野別目標

(A) 情報処理分野

コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・データベース・ネットワーク、ゲームプログラミング等の情報通信技術(ICT)の各要素技術についての実践的な専門知識・技術を修得し、社会のニーズに応える情報通信システム的设计・構築・運用に活用できる人材を養成する。

(B) ビジネス分野

経営・商業実務・情報通信技術(ICT)についての実践的な専門知識・技術を修得し、企業活動のために活用できる人材を養成する。

(C) デザイン分野

ドローイング、デザイン、色彩、デジタル素材加工技術、コンピュータグラフィックス、アニメーション、オーサリング等についての実践的な専門知識・技術を修得し、社会のニーズに応えるデジタルコンテンツ制作に活用できる人材を養成する。

学習・教育到達目標

<DPの設定>

1. 各専門職業分野において必要な実践的な専門的知識・技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる。(知識・理解)
2. 変化する社会・産業界の要請に対応し、問題解決のために、多面的な観点から自立的かつ論理的な判断を行うことができる。(思考・判断)
3. 豊かな人間性・創造性を持ち、専門職業人として技術を社会に役立てることができる。(態度)
4. 情報化・国際化に対応する基礎能力を持ち、インターネットなどの情報通信技術(ICT)を活用しながら、自らの考えを論理的に説明し伝達することができる。(技能・表現)
5. 専門職業人として、専門的知識・技術を修得するために、自ら継続的に学習し、キャリアを形成できる。(関心・意欲)

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・ Society5.0 の実現に向けた ICT とデジタル経済の進行において ICT 技術者・クリエイターには産業社会の中核としての役割が期待されている。このような状況の中で、本校がこれまで以上に質の高い職業教育で ICT スキルを身に付けた卒業生を輩出することによって社会の期待に応えていくために、「情報デザイン教育」の実践と充実を最重要課題として取り組む。
- ・ 「実践力」養成に向けて、授業の中に企業現場の「実務」や「訓練」、仕事を遂行する上で必要な「仕事マインド」（※勤労観・職業観等の価値観を基礎としながら、業界・職種を理解して専門職業人・社会人として活躍していこうとする心構え）育成の要素を教育に取り入れる等の工夫を行い、その教育成果を以って本校の教育の特色としていく。
- ・ IT 分野の重点課題である資格取得実績維持に向けて教育体制・教育方法を継続して改善する。特にプログラマ育成を目指して試験制度が変更される基本情報技術者試験に対応した新カリキュラムに基づく授業展開に取り組む。専門技術教育についてはプログラミング科目・システム設計科目において「実践力」養成に向けて刷新したシラバス・教材での授業実施を行う。
- ・ デザイン系分野では、ポートフォリオ制作を主軸にした専門就職指導を継続して実施している。今後も外部コンテスト参加など学生の自主的活動を促進するとともに、変化の激しいクリエイティブ業界の動向に対応するため、カリキュラムに取り入れるべき教育内容の検討を行っていく。
- ・ FD・教育改革への取り組みにおいて特色を持つ専門学校を目指し、教育活動の計画・実施・評価・改善のサイクルを通じて教育を改善していく。また、引き続き、教育課程編成委員会や自己評価・学校関係者評価の結果を教育活動の改善につなげていく取組みを強化する。
- ・ 全産業界において IT 人材が不足する中、それを追い風に情報系専門学校として就職の量の拡大と質の向上を目指す。また、高い専門就職率を実現するために、修業年限に応じた就活準備、受験、面接、内定までの支援体制を充実する。
- ・ 大学との新たな競争環境下において志願者を確保するために、「志願者のニーズに応じて多様な修業年限を選択できる学科構成」と「実践力の養成・資格取得・就職実績等の教育の質」を専門学校の特徴として打ち出すことで、募集活動の強化をはかることとした。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1

・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1
---	---------

① 現状と課題

本校では建学の理念・学園の使命に基づいて、教育目的を「未来の産業社会で活躍できる中堅技術者を養成する」と定め、人材像を「Society5.0 に向けた技術の進展に対応するとともに、情報通信技術(ICT)の企業現場においてキャリアアップを目指せる自立した技術者・クリエイター」と定義した。2023年度は「産業界が求める実践力を持った学生の養成」に向けた教育改革を加速し、「情報デザイン教育」の概念をより具体的にしてい取り組みとして、「実践力」の内容を具体化・明確化し、学校全体の目標として教職員・学生間で共有できた。現在、情報処理系分野において、設計書に基づいたシステム開発を行う企業現場の実務を擬似体験させる等、従来の「スキル」中心の授業から「タスク」を中心とした授業への転換が始まっている。

これらをふまえ、以降の5年間を「情報デザイン教育」の第2ステージと位置づけ、学生の「実践力」養成に本格的に取り組んでいく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・「産業界が求める実践力を持った学生の養成」を学校全体の目標として、それを具体的に実現する教育システムによる教育実施の初年度となる。そのため、授業科目ごとのFD(授業内容・方法を改善するための組織的な取り組み)の実質的な展開が課題となる。併せて、「情報デザイン教育」の主人公である学生が自律的・主体的に「実践力」の修得を目指す雰囲気を促進するための学内広報や学習機会の創出についても積極的に取り組む。
- ・建学の理念・学園の使命、教育目標・DP等について、関係業界・保護者等に対しても、様々な機会を通して、より丁寧に周知していく必要がある。

(2)学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1

・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1
----------------------------	---------

①現状と課題

校長を責任者とする学校運営委員会において、事業計画と目標に沿った運営方針を策定している。そして学校全体の事業計画案の策定と併せ、各委員会・各課において実施計画案を策定し、学校運営委員会で審議・決定の上、教授会と各課会議において報告・共有している。

理事会と評議員会は学校法人大阪経理経済学園寄附行為に基づいて適正に開催され、学校法人及び学校全体の重要事項が審議・決定されている。また運営組織や意志決定機能は組織図において明確化されている。学校運営委員会の下に各委員会・各課の会議が定期開催され、実施計画に基づく各種業務が遂行されている。

予算については、予算編成事務局の下で策定され、理事長が編成し、理事会の承認と評議員会の諮問を経て、法人総務部が適正に執行管理している。

教育活動等に関する情報については、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」で掲げられた項目や、職業実践専門課程の基本情報、修学支援新制度の認定校として公開すべき情報について、学校のホームページにおいて公開している。

情報化については、出席・成績等の学籍管理、教育、就職支援、学生サービス、また予算・会計等、全業務の情報システム化を図っている。そして情報メディアセンターを責任部署として、学内ネットワークシステムの安定運用のための体制強化と更なるセキュリティ強化に取り組んでいる。

②今後の改善方策

・運営方針に沿って、自己点検・評価を日常的に行い、教育の充実と業務の改善を図る。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1

・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・教職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

○教育理念と教育課程

本校では建学の理念・学園の使命、教育目標・DP に基づいて、CP(カリキュラムポリシー)・シラバスを一貫した形で策定している。企業等と連携した教育課程編成委員会実施を通じて、関連業界の要請を反映した育成人材像の見直しを行い、CP およびカリキュラムツリーを作成し、体系的な教育課程を編成している。また、各授業のシラバスの学習到達目標は学生が主語となった「～ができる」という明確な目標で記述している。

「職業実践専門課程」は、2018年4月より本校の全8学科が認定を受けた体制となり、認定要件である企業等と協力した教育課程編成委員会や自己評価・学校関係者評価等の取り組みを通じて、教育活動を点検する仕組みが一層強化されていると考える。

○コロナ禍への対応と教育活動の正常化

2023年5月、新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に位置付けられ、収束局面を迎えた。これにともない、2023年度、本校はほぼ全ての教育活動を正常化するとともに、「未来の産業社会で活躍できる中堅技術者の養成」という教育目標の達成に向けた取り組みを再び本格化した。

○企業連携授業・インターンシップ

各専門分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するために企業等と連携してシステム開発・作品制作に関する演習授業を実施するとともに、地域連携プロジェクト等を通じて「ものづくり教育」を充実させる取り組みを継続して行った。また、トヨタ自動車株式会社「2023年夏期 CG クリエイターインターンシップ」にゲームCG分野の学生が初めて参加し、他の専門学校生と共に最先端機器でのCG制作を体験する等、インターンシップ参加促進の取り組みを行った。

○IT系分野専門教育

プログラミング能力向上のため、プログラミング科目・アルゴリズム科目において訓練プラットフォームTechFULを導入するなど豊富な演習量を確保して訓練強化を図る授業改善を行った。また、プログラマ職種の仕事マインド養成の機会としてTechFULプログラミングコンテストを初めて開催した。

ゲームPG分野では、専門就職率の向上に向けて、育成すべき人材像を再設定し、2024年度カリキュラムを作成した。また、ゲーム企業と共同で実施するポートフォリオ講評会などの各種イベントを充実させるとともに、新たにコードレビュー会を実施することで、学生の作品制作力向上に取り組んだ。

○デザイン系分野専門教育

ゲームCGデザイン分野に「2Dアニメーション基礎」、CG映像分野に「アニメーション制作基礎技術」、デザイ

ン分野に「2DCG 画像編集」をそれぞれ 1 年次に配置し、2DCG 関連での専門職就職に必要となる基礎技術力の向上に取り組んだ。また、業界で求められる技術要素を可能な範囲で授業内容に加えるため、ゲーム業界・映像業界・広告業界の現状について調査し、今後取り組むべき課題を学内で共有することができた。

○学生作品展・メディアフロンティア

学生作品展 Media Frontier を学内展示と Web サイト展示で開催した。多くの業界関係者に作品を観覧してもらう機会となり、学修成果の発表の場として学生の成長に繋げることができた。

○授業評価の実施・評価体制

教育の質保証に向けたFD活動を推進し、授業評価アンケート等の年間を通じた教育評価改善活動に取り組んだ。学生の授業理解度評価が低い講師に対し、面談を通じて課題点を整理する等、授業満足度を高める取り組みを行った。

○教職員研修

教員が最新技術動向や業界が求める人材像を把握し、先端的な知識・技能等を修得するために、計画的にIT・デザインの各関連分野の専門技術研修に参加した。また、多様な学生の特性を理解し、学業不振・目標喪失させないための授業・学生指導・就職支援を目的とした全体研修会「多様なニーズのある学生の理解と支援について」を実施した。

② 今後の改善方策

- ・職種としてのプログラマやSEの実践力養成に向けた教育改革を加速するために、「タスク・専門スキルモデル」に基づくカリキュラム・シラバス・教育プロセスによる専門技術教育を展開し、教育の質向上と組織的な教育プロセス実践による目標管理および訓練強化を目指す。また、「タスク・専門スキルモデル」を教職員・学生に展開し具体的な技術者像の共有を図ることで、自主的・目的意識的な学習スタイルを促進するとともに学外広報への活用を支援する。
- ・ゲーム PG 分野に関しては、ゲーム専門就職率向上のため、現在のスキル中心のカリキュラムから作品作り(タスク)中心のカリキュラムにシフトする。また授業内容の更新に合わせてゲーム教材の更新の準備を進める。
- ・デザイン系分野では、業界の動向やニーズに対応する技術要素を実現可能な範囲で授業内容に加えるよう取り組む。また、他の専門学校との一層激しい入学者獲得競争を見据えた対策として、「キャラクターアニメーションコース」「コミックアート専攻」をはじめとする5つの新しい専攻・コースを2025年度から設置し、2年制・3年制コースを充実させ、高校生のニーズに合わせた多彩な選択ができるよう取り組む。
- ・授業を通じたスキル向上を目的に開始した科目単位でのFD活動を推し進めるために、各専門分野で取り組んできたFD活動の内容を再整理し、改善を加え、実施していく。また、学生の自主的な学習を促進するために探求課題型の課題解決型授業を増やす。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1

・中退率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

○委員会体制

本校ではキャリア支援委員会・教務委員会・学生生活指導委員会の専門委員会等を主管として就職率・資格取得率・中退率等の重要指標の管理を行っており、それぞれの成果を向上させている。

○就職率の向上

業界・職種セミナーによる職業理解や面接力向上の取り組み等の就職前年度支援を強化し、学生の積極的な就職活動を促進した。また、早期化する企業採用に対応するための層別・個別支援を充実させることで就職率目標を達成することができた。独立大手、ユーザー系、メーカー系の IT 企業等に専門職で就職することができた。

○IT 系分野資格取得率の向上

大幅に制度変更された基本情報技術者試験 (FE 試験) をプログラムの「実践力」養成教育の重要な機会として捉え、取得率目標を引き上げ、「アルゴリズム科目」において目標管理と訓練強化を徹底したシラバス準備と授業展開を行った 1 年生の FE 試験取得率は目標を大幅に上回る過去最高の数値での達成となり、応用情報技術者試験においても合格者を輩出した。

○デザイン系分野コンテストおよび専門就職率の向上

制作意欲向上のための取り組みとして、2 回目の参加となる、産経新聞社主催「絵師 100 人展 13 大阪展」併設展示の「NEXTAGE(学生作品展示)」にイラスト作品を展示した。外部コンテストでは、「第 12 回全国専門学校ゲームコンペティション 企画部門」においてファイナリスト選出、「GAIRA ペライチチャレンジ 2023 ゲーム企画部門」で企業賞、「HaHaHa Osaka Creativity Award 学生部門」で優秀賞、「公益社団法人日本キャンパ協会の 2024 会員証デザインコンテスト」で正式デザインに選ばれるなど、5 コンテスト 7 作品が受賞した。

また、大手ゲーム会社(株)カプコンをはじめ、(株)トッパングラフィックコミュニケーションズ、(株)タニスタなど難関企業への就職を果たすなど、専門職就職率目標を達成した。

○中退率の低減

1 年生については、学生が安心して学校生活を開始できるように 4 月中に担任による個人面談を行い、勤労観や職業観を育成させ目的意識を持って学習に取り組めるようにフレッシュャーズガイダンス等の初年次導入教育を実施した。これらの取り組みを通じて、中退率目標を達成することができた。

② 今後の改善方策

・IT 系分野では、引き続き FE 試験を始めとする「資格取得」が「実践力」養成の重要な目標のひとつである。資格取得プロセスおよび科目 FD 活動を更に発展させることで IT 系分野の教育体制・教育方法を継続して改善し、FE・AP・MOS 等の各専門分野に応じた資格取得目標を達成する。

・デザイン系分野は、業界の要請に対して柔軟に対応し、自発的に仕事に取り組むことのできるクリエイターを養成するため、部活動、コンテストへの応募、産学連携活動などへの積極的な参加を促すことを課題とする。また、業界の動向や高校生のニーズを考慮し、他の専門学校との競争を視野に入れて、アニメーション・イラスト

分野をデザイン系に新設し、カリキュラム内容を強化する。これらの取り組みを通じて専門就職率目標達成を継続していく。

- 1 年の中退率について新たに目標を設定し、目標達成に向けた対策に取り組む。また、留学生に対する日本語能力向上、学修支援、学生生活支援、キャリア支援等の体制を強化し、学業継続率の向上と希望進路を実現する総合的な支援を実施する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか	4 3 ② 1

① 現状と課題

○就職支援体制

学生の就活準備要件を「自己分析」「職種選択」「企業選択」等の項目に整理した。「就職特別指導」等の授業や各種の就活準備行事等を通じて、学生の就活意欲を高める前年度支援を充実することができた。また、インターンシップへの参加を促進し、就活意欲を醸成できた。

企業採用動向に対応した学内企業説明会の実施を中心に、採用を早期化する企業、夏期以降の採用継続といった企業の採用情報を収集し、学生の就職意欲に応える企業求人確保・紹介した。

○学生生活支援

学生が有意義な学生生活を送るために、ネスタリゾート神戸への校外行事をはじめとした学校行事や女子支

援等の対象別イベントの実施、クラブ活動活性化に向けた支援を行った。

また、各専門分野を代表する成果をあげた学生や成績優秀な学生や経済的理由により学業継続困難な学生を学内奨学生として 60 名を採用し奨学金を給付した。年度末には、学生の学業上の成果と成長を全校で祝福し、学生の励みとチャレンジ意欲の契機とするため、優秀者表彰式・祝賀会を開催した。

○高専連携教育

高校と連携したキャリア教育・職業教育の取り組みとして、大阪府下を中心とした高校への講師派遣や出前授業実施等の協力を行った。また、グループ校である大阪情報コンピュータ高等専修学校とは、定期的な高専連携協議会の開催等を通じて、緊密なキャリア教育・専門教育の連携・協力を行った。

② 今後の改善方策

- ・職種、修業年限に応じた就職前年度支援の時期・内容を変更し、就活スケジュールを見直す。特に 2 年制学科学生の職業理解・職種選択を促進し、就活スキル向上に集中して取り組めるよう支援する。
- ・学生が安心して学び、学校生活全体を通じて成長できるよう、クラス単位や学年、分野などの学生間交流を育む学生生活支援を行う。学校行事については、目的達成に向けコロナ禍以前の形態に戻し実施する。
- ・留学生の充実したキャンパスライフとキャリア形成を支援するために、「留学生支援プロジェクト」で支援内容を検討し、学部と事務局が協働して実施する。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

校舎外壁の長期にわたる安全性を確保するとともに、意匠性を高めるため、外観のリノベーション工事を実施するとともに、省エネルギーと快適な教室環境を実現するため、窓を閉めたまま換気をし、適切な気温・湿度を保つことができる「全熱交換式換気装置」を導入した。

また、メディアラボ実習室にデザイン／ゲーム PG 分野の最上位層向け教育効果向上のため、高度な演習に対応できる高性能なハイエンド PC を導入した。

② 今後の改善方策

専門技術教育の充実に向け、複数実習室の PC 更新や OS、アプリケーションの更新を行い、教育効果を高めるための快適な実習環境を実現する。

また、ポータルシステムや Google Workspace などの Web サービスの構築・運用を行うことで、学生に対する Web サービスの質を向上させる。

(7) 学生募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学生納付金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

志願者、保護者、高校教員、企業関係者に対して、学校案内パンフレットや学校ホームページ（PC版・スマホ版）、進学情報サイト、進学情報誌などの媒体を通して、学校の概要や建学の理念、教育の特徴、カリキュラム内容、取得可能資格、就職先企業などの学校情報を掲載している。高校進路指導部に対しては、進学説明会で訪問した機会や直接訪問する際に当該高校出身者の就学状況や就職状況等について詳しく説明している。また募集要項を別冊で作成、入学資格や入学手続き、学費や必要経費、奨学金などの情報を提供している。これらの情報を掲載するにあたっては、本校独自の広告規定を策定し、常に公正を期し、事実に基づいて正確に表記するとともに、学校として節度ある表現を徹底している。また学校教育法や大阪府私立学校情報提供指針等の学校情報の提供に関する法令や指針、個人情報の保護に関する法律や著作権法等の広告に関連する法令に則って、細心の注意をはらって情報提供・広告掲載を行っている。

学生募集にあたっては、上記、学校情報の提供とともに、年間を通してオープンキャンパスを開催する他、高校や地域等で開催される進学説明会に参加することを通して、志願者、保護者と直接面談する機会も確保し、入学相談に応じている。特にオープンキャンパスにおいては、専門学校での授業をイメージできる体験実習以外に、入試説明会、業界説明、在校生作品紹介など多様なプログラムを実施している。AO入試の実施にあたっては、大阪府専修学校各種学校連合会の運用基準にしたがってスケジュール等を遵守している。

資格取得や就職状況等の情報については、年度ごとの合格者数や就職者数を公表、また合格者、就職者のインタビューを掲載するなど、学校の教育実績を正確に伝えている。2023年度は産業界で求められるIT人材について高校生の関心を広めるため、航空や鉄道など各産業を支えているIT技術についてのリーフレットを作成し志願者に配布した。また、継続して在学生や卒業生を対象にしたカリキュラムや授業内容、教員の指導力、学校生活、就職サポートなど、学校全般に関するアンケート調査を実施してきた。学納金については、関西における同分野専門学校の平均と比較しても、本校の教育内容、施設設備等に鑑みて妥当であると考えられる。

② 今後の改善方策

・情報系学部の新設など大学との競争が一層激化する環境の下で、引き続き情報提供等の取組に対する精査と募集活動における創意工夫を行い、入学者の安定的確保を図る。一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会から示されたAO入試等についての指針を踏まえ、入試制度を志願者や高校進路指導部に対して周知し、入学選考を適正に実施する。

- ・IT分野ではOICの特色として2・3・4年制という修業年限のバリエーションを高校1年、2年生の段階から強調し、短期間で専門技術の修得や国家資格の取得が可能である点を訴求する。
- ・ITテクニカル学科は、大学・短大出身者、社会人経験者に学びなおしの機会を提供し、社会人を対象とした教育訓練給付金の認定校であることを幅広く訴求する。
- ・デザイン分野は芸術系大学と比較しても高い専門就職率を訴求するとともに、新コースの設置の準備を行う。
- ・留学生については、「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」による就職条件の拡大、手厚い留学生サポート、低学費などを訴求する。

(8)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

①現状と課題

学生生徒等納付金収入を基礎とした学校の財務基盤は中長期的に安定している。量入制出の原則に基づき、教育環境の整備・充実を進めると同時に、徹底した業務の見直し・経費節減を図っている。

毎年9月より、予算編成事務局の下で次年度の事業計画案と予算案の策定を進め、理事長が編成し、3月に理事会の承認と評議員会への諮問を経て、適正な予算執行を行っており、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。

学校法人及び学校の会計は、学校法人会計基準に則り、適切に処理されている。私立学校法第37条第3項に基づく監事の監査と、私立学校振興助成法第14条第3項に基づく独立監査人(公認会計士)の監査を受けており、会計監査は適正に行われている。

収支計算書・貸借対照表・監査報告書等を学校のホームページに掲載して公開している。また、私立学校法第47条第2項に基づき、請求があった場合(財産目録等(役員名簿等を除く)は利害関係人から請求があった場合)には、閲覧に供する体制を整備している。

②今後の改善方策

- ・引き続き教育環境の整備・充実を進めると同時に、費用対効果を勘案し、更なる業務の見直しを進める。

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
------	-------------------------------

・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

①現状と課題

教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準、私立学校法、学校法人会計基準等、各種法令を遵守し適正に運営している。特に重要項目については、教職員への周知を更に進める必要がある。

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」と「文部科学省所管事業分野における個人情報保護に関するガイドライン」に基づき、適切に取り扱っている。入試広報業務においては、学校のホームページにプライバシーポリシーを掲載し、本校の「個人情報保護の考え方」を明示している。

学内においては、学内ネットワーク及びインターネット・電子メール利用に関して、モラルの維持とセキュリティ対策を目的に「ネットワーク利用規程」を定め、教職員と在學生に遵守を義務付けている。

サーバ・ネットワークシステムについては、継続的に情報セキュリティ対策の強化に取り組むとともに、個人情報と業務データに対するアクセス権の厳重な管理によって、安全性の確保と情報流出の防止に努めている。

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価を実施している。またその結果を、学校関係者評価委員会を開催して報告し、意見を頂いた上で学校運営に反映させている。

自己評価報告書と学校関係者報告書は、学校のホームページに掲載して公開している。

②今後の改善方策

・予算・事業計画の中に自己評価及び学校関係者評価の結果を反映する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 ② 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 ② 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 現状と課題

産学連携の実績として、インテックス大阪で開催された「第27回オートメッセ2024」にオフィシャルの撮影スタッフとして、CG映像分野の学生が参加した。また、大阪国税労働組合からの依頼で、組合の重要性・必要性に関するアニメーション動画を学生が制作した。さらに、大阪商工会議所南支部主催「あべの天王寺サマーキャンパス」において、小学生の体験者に対して、イラスト制作のオンライン授業を学生が行うなど地域貢献にも積極的に取り組んでいる。

また、2023年度、ITテクニカル学科のITシステムエンジニアコース及びITネットワークエンジニアコースが厚生労働大臣の指定を受け、専門実践教育訓練における「教育訓練給付金」及び「教育訓練支援給付金」制度の対象となった。

② 今後の改善方策

- ・地域の活性化に向けて地域社会との連携を強化する。
- ・積極的にボランティア活動の奨励を検討する。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

本校は開校以来、留学生を積極的に受け入れる体制を整備しており、受け入れに当たっては日本語能力試験2級レベル以上の取得を明確にした上で、筆記試験と面談を実施する等、適切に受け入れている。在籍管理については適切な手続きと指導を行っており、入国管理局からは「適正校」として認定されている。

クラス担任と留学生担当による学修相談、生活指導、進路指導等の個別相談体制や留学生の特別奨学生制度を整備する等、学びやすい修学環境を提供し専門職外国人人材を養成した。

また、経済的な困難を抱える留学生に対し、JASSO等からの支援案内を周知するとともに、本校留学生特別奨励奨学金などによって修学をサポートすることができた。

進路に関する支援については、採用に意欲が高い企業の新規開拓をはじめ大学編入学の受験指導等、入学時から将来の進路(大学進学や就職等)を意識した留学生の支援ができた。

② 今後の改善方策

- ・留学生の希望が多い日本での専門就職に向けて、日本語力の向上と専門知識とスキルの習得のための支援を一層充実する。また、日本文化や企業の特性について理解が深まるように支援する。

以 上